KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立トラクタ装備形
土壌消毒機

MF41
MF51
MF61

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

目　　次

安全にご使用いただくために ・・・

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ

⚠ 警　告

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください

取扱説明書

○ この取扱説明書には、製品の組立や操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので良く読んで理解してください。
○ この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。
○ 製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。
○ 使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。
○ 損傷により読めなくなったり、紛失した場合には、販売店から購入してください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用目的以外の使用禁止

○ この製品は土壌中の病菌害虫を駆除するために、土壌を消毒するものです。
○ 本書に記載されている用途以外に使用しないでください。
○ 日本国内でのみ使用してください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

○ 製品を改造しないでください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

○ 定期的な点検・整備をしてください。
○ カバーを外したままで運転しないでください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

○ 製品を貸すとき、借りて作業する人に取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行なった後、取扱説明書と製品を貸与してください。
○ 製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書もわたしてください。
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者

○ 体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。
○ 次のような人は使用しないでください。
・ 妊娠している人
・ 農薬の影響を受けやすい人
・ 取扱説明書の内容を理解していない人
☆ 事故や重傷を負う原因となります。

保証書

○ 使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合はメーカー保証の対象外になりますので、ご注意ください。詳しくは保証書をお読みください。

安全にご使用いただくために

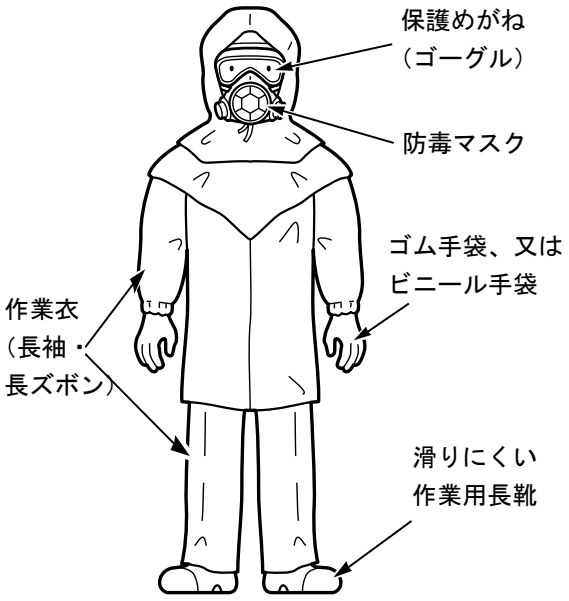
⚠ 警　告

健康管理

○ 休憩をとりながら余裕を持って作業してください。
○ 長時間の作業はさけ、２時間を限度にしてください。
☆ 健康障害を受ける恐れがあります。
○ 作業中や作業終了後、身体に異常を感じた時は医師の診断を受け、使用した農薬の種類を告げてください。
☆ 処置が遅れることにより、健康障害につながることがあります。

保護具の着用

○ 農薬散布時は、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。農薬に直接触れないでください。
☆ 農薬に触れたり吸引すると、薬害事故を引き起こす原因となります。
○ 首にタオルを巻いたり、腰てぬぐいをしないでください。
☆ 回転部に巻き込まれて、事故の原因となります。
○ 作業中に着た服は、他の衣類と別に洗ってください。
☆ 薬害の原因となります。

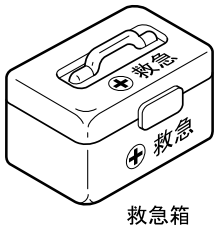


製品の使用環境・作業環境

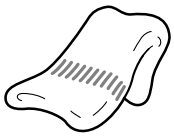
○ 下記のような場合は製品を使用しないでください。
　・ 降雨時や落雷の恐れがあるとき
　・ 急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所
　・ 夜間や視界が悪い場所
☆ 転倒や滑落、誤った操作などにより、重傷を負う原因となります。

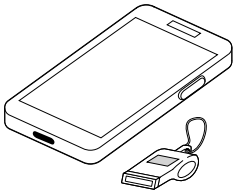
事故やケガへの備え

○ 事故やケガに備え、下記の用具を用意してください。
　・ 救急箱（応急手当用）
　・ タオルや、てぬぐい（止血用）
　・ 呼子や携帯電話（外部との連絡用）
☆ 応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



救急箱


タオル、てぬぐい



発火・発煙・火災への備え

○ 発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。
○ エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、製品からはなれ、身体の安全を確保してください。
○ 周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、消火器で消化してください。
※ あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

安全にご使用いただくために

警告表示について

⚠ 危　険	⚠ 警　告	⚠ 注　意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

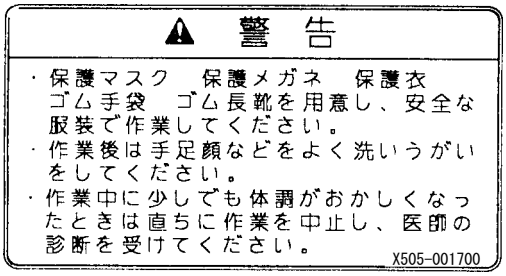
重　要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

警告表示ラベルの位置

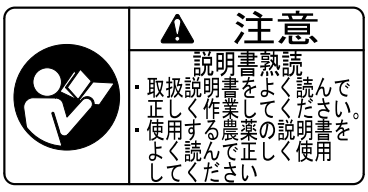
○ 本書で説明している製品の警告表示ラベルを示しています。ご使用前にラベルの意味を理解してください。

○ ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に張り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

1．部品番号：X505-001700



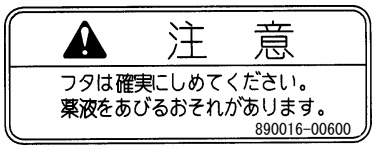
2．部品番号：X505-002220

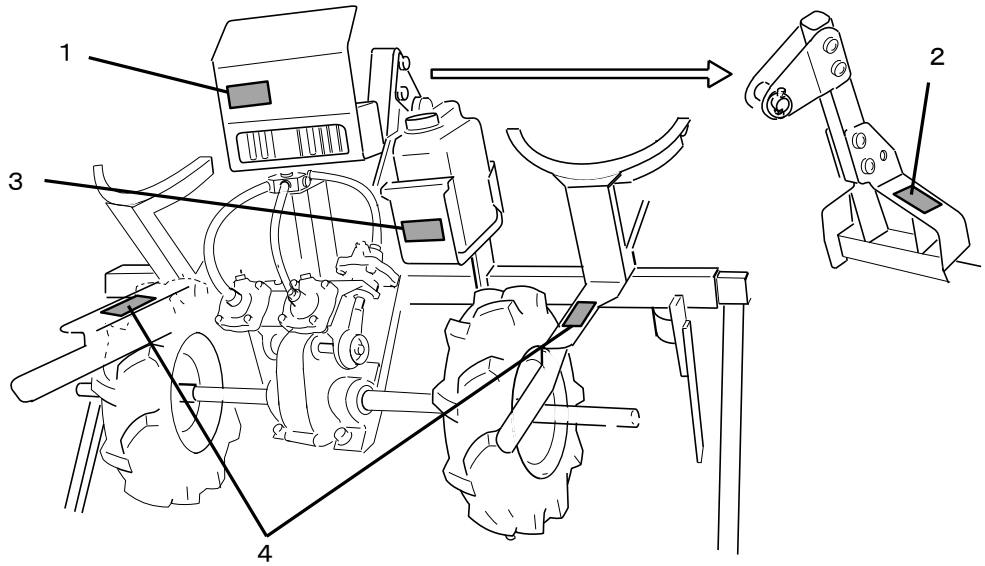


3．部品番号：X505-000600



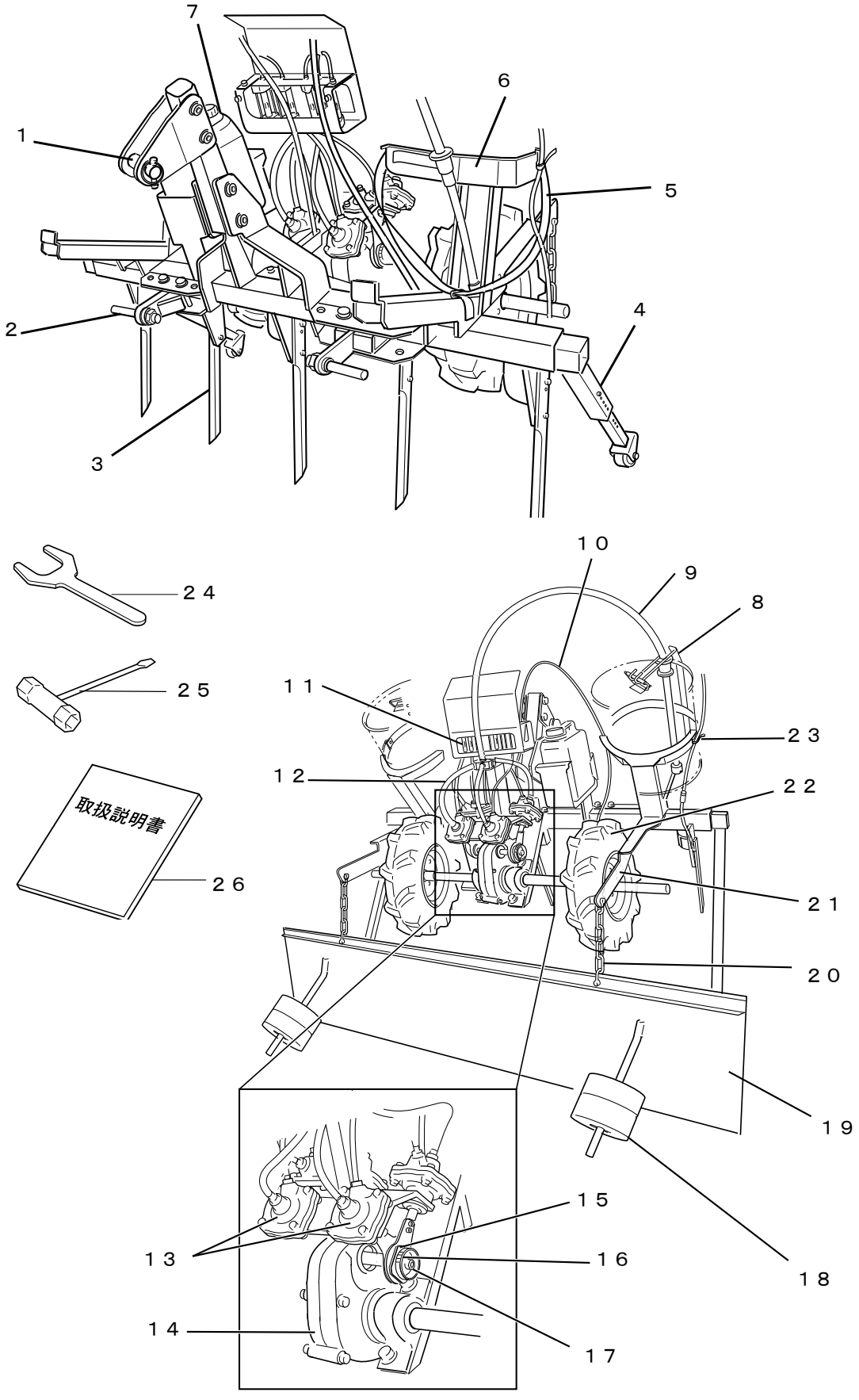
4．部品番号：890016-00600





１．各部の名称

※ 説明図は「ＭＦ５１」で解説しています。

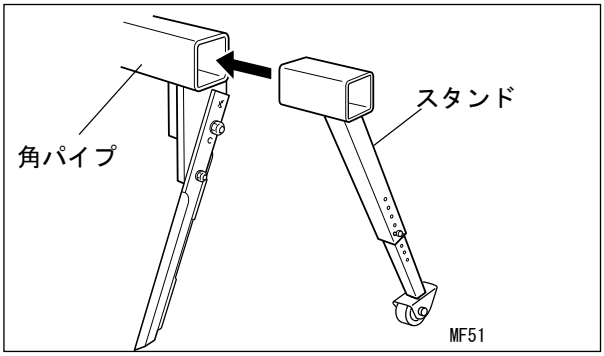


MF51

１．各部の名称

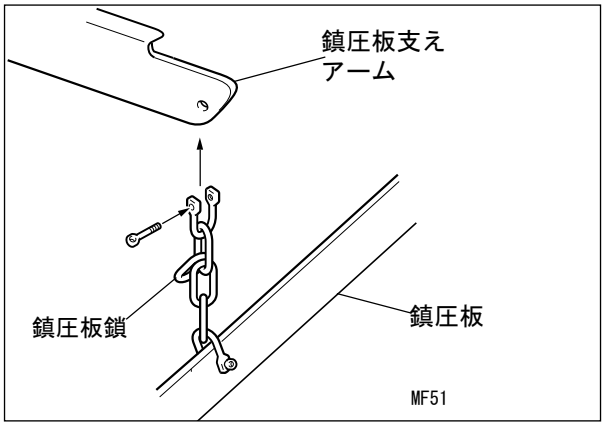
１．　上部ヒッチピン　――――― トラクタのトップリンクに取付けます。
２．　下部ヒッチピン　――――― トラクタのロアリンクに取付けます。
３．　注入刀　――――― 薬液を土中に吐出させます。
４．　スタンド　――――― 保管時や本機をトラクタに装着する際に使用します。
５．　薬液缶バンド　――――― 薬液缶を固定します。
６．　缶取付台　――――― 薬液缶を載せる台です。
７．　洗浄タンク　――――― 洗浄液を入れ、ポンプ内の洗浄に使用します。
８．　薬液缶キャップ固定バンド　――――― 薬液缶キャップが外れないように固定します。
９．　吸入ホース（Ａ）　――――― 薬液缶のふたを取外して差し込み、薬液を吸入します。
１０．吐出ホース　――――― ポンプから吐出した薬液を注入刀に送り込みます。
１１．検流計　――――― 薬液の流れを確認します。
１２．吸入ホース（Ｂ）　――――― 分配管からポンプへ薬液を吸入させます。
１３．ダイヤフラムポンプ　――――― 薬液を吸入、吐出させます。
１４．ミッション　――――― 車輪の回転を４倍に増速し、ポンプを駆動させます。
１５．調量ダイヤル　――――― 薬液の注入量を調整します。
１６．目盛板　――――― 調量ダイヤルの線を目盛に合わせ、薬液の注入量を調整します。
１７．ロックナット　――――― 調量ダイヤルを固定させます。
１８．鎮圧ウェイト　――――― 鎮圧の働きを高めます。
１９．鎮圧板　――――― 注入刀でできた作溝をふさぎ、鎮圧します。
２０．鎮圧板鎖　――――― 鎮圧板を吊り下げます。
２１．鎮圧板支えアーム　――――― 鎮圧板を鎖で吊り下げます。
２２．ポンプ駆動車輪　――――― 車輪が接地し、トラクタを走行するとポンプを駆動させます。
２３．ホース支えバンド　――――― 吐出ホースをフレームに固定します。
２４．片口スパナ　――――― 調量ダイヤルの固定および調量位置合わせに使用します。
２５．ボックスレンチ　――――― 調量ダイヤルのロックナットをゆるめたり、締めたりするときに使用します。
２６．取扱説明書　――――― 本製品を使用する前に必ず読んでください。

２．作業の準備



2-1. スタンドの装着

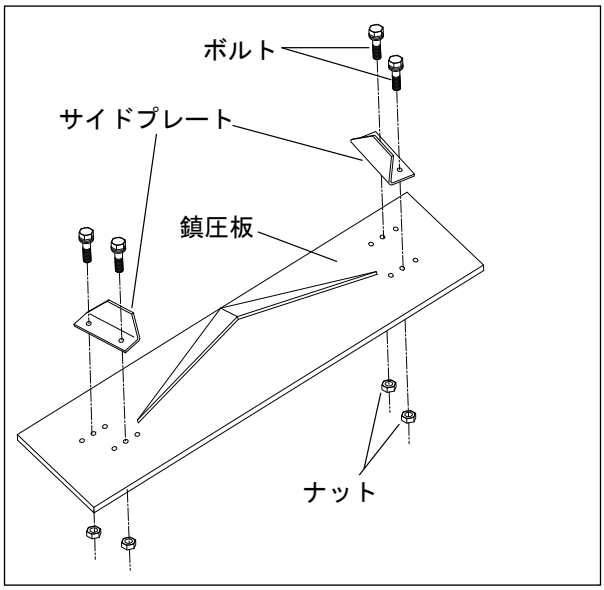
本製品を木枠から取出し、本体フレーム角パイプの両側に付属のスタンドを取付けて、本製品を前傾するように取付けてください。



2-2. 鎮圧板の組付けと調整

鎮圧板は分離されて梱包されいますので、次の要領で組付けてください。

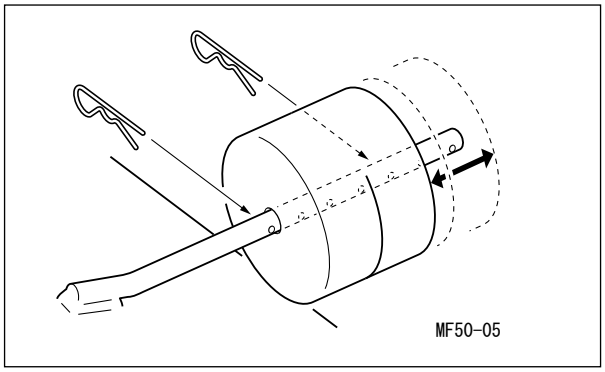
- 鎮圧板を鎮圧板鎖で本体の鎮圧板支えアームに組付けてください。
- 圃場条件に合わせ、鎖数により鎮圧板の吊り角度を調整し、土寄せを良くします。



2-3. サイドプレートの組付け

ＭＦ５１、６１はサイドプレートを組付けてください。

- 付属のサイドプレートをボルトとナットで鎮圧板に取付けてください。
  ＭＦ６１の場合、けん引するトラクタのタイヤ幅に合わせて取付けてください。
  タイヤ幅に合わない時は、取付け穴を追加して使用してください。



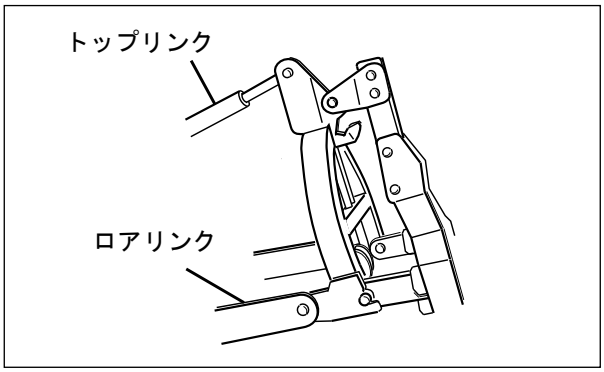
2-4. 鎮圧ウェイトの組付けと調整

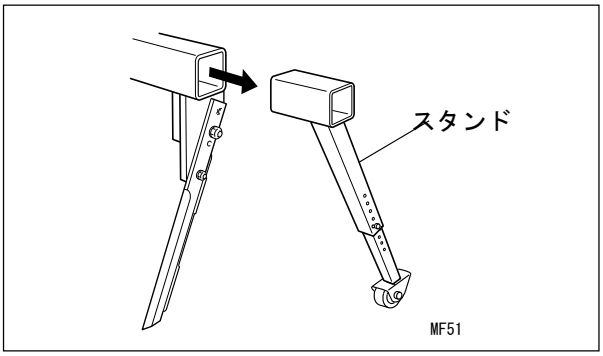
鎮圧ウェイトは着脱可能ですので、使用時に圃場条件に合わせ、取付け位置や取付け個数を調整してください。

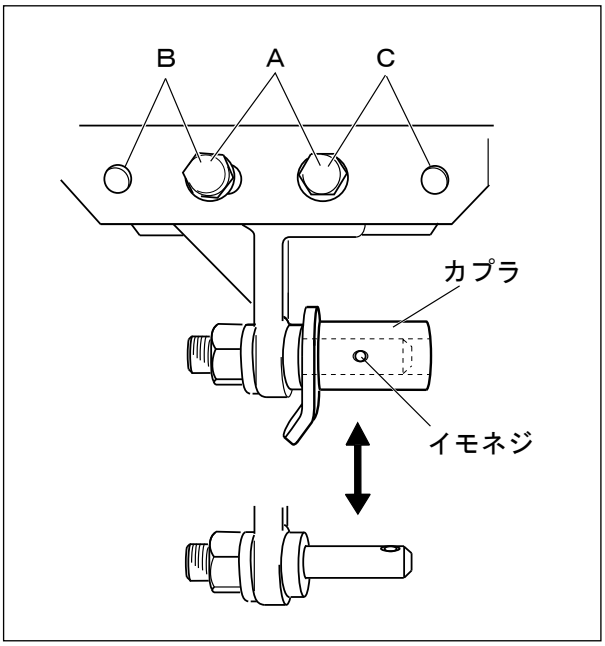
- 鎮圧ウェイトの取付位置を先端側に寄せると土寄せが多くなり、車輪跡が消えるようになります。

２．作業の準備

重　要
トラクタの操作は必ずトラクタの説明書にしたがってください。







2-5. トラクタへの装着

本製品を駆動するトラクタは巻末の仕様ページに記載されているものを選んでください。

1）オートヒッチの場合

●本製品は日農工オートヒッチ規格に対応しています。

オートヒッチの装着は、ＭＦ４１，５１，６１の３仕様とも（社）日本農業機械化工業会制定の下記区分に適合しています。

日農工 標準オートヒッチ

０－Ⅰ形兼用、Ⅰ－Ⅱ形兼用

日農工 特殊オートヒッチ

Ａ－Ⅰ形、 Ａ－Ⅱ形、 Ｂ形

※ 特殊オートヒッチを使用して本製品を跳ね上げるように上昇させた場合、薬液缶内の薬液がこぼれ落ちる恐れがありますので注意してください。

●本体が前傾姿勢になるようにスタンドの長さを調整してください。

●トラクタ後部のオートヒッチへ正しく取り付けてください。

●作業時はトラクタのリンクを上昇させスタンドを撤去してください。

＜ロアリンクピンの調整＞

①左右の幅調整

Ａのボルトを取外して、ロアリンクをＢ、又はＣの穴側にずらして組付けてください。組替え後はボルトを確実に締付けてください。

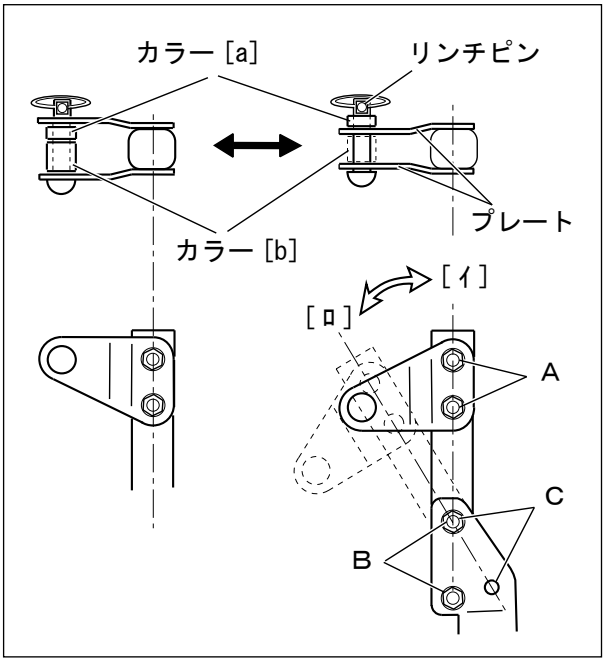
②ピンの太さ調整

イモネジを弛めてカプラを脱着してください。

※カプラを取付けて使用する場合には、必ずイモネジで締付け固定してください。

日農工オートヒッチ	取付位置	カプラ装着
０－Ⅰ形兼用	Ａ	無し
０－Ⅰ形兼用（Ｓｶﾌﾟﾗ）		装着
Ⅰ－Ⅱ形兼用	Ｃ	無し
Ⅰ－Ⅱ形兼用（Ｌｶﾌﾟﾗ）		装着
特殊 Ａ－Ⅰ、Ａ－Ⅱ形	Ｂ	無し
特殊 Ｂ形	Ａ	

２．作業の準備



日農工オートヒッチ	取付幅	カラー装着	
		[a]	[b]
0 － Ⅰ形兼用	狭い	外側	無し
0 － Ⅰ形兼用（Sｶﾌﾟﾗ）			内側
Ⅰ － Ⅱ形兼用	広い	無し	無し
Ⅰ － Ⅱ形兼用（Lｶﾌﾟﾗ）		内側	内側
特殊 A － Ⅰ、A － Ⅱ形	狭い	外側	無し
特殊 B 形			

＜トップリンクピンの調整＞

① ピンの太さ調整

カラー [b] を脱着してください。

② 取付幅の調整

Ａのボルトを取外し、両側のプレートを各々裏返して組付けてください。

幅広の状態でカラー [b] を装着する場合には、カラー [a] もプレートの内側に一緒に組込んでください。

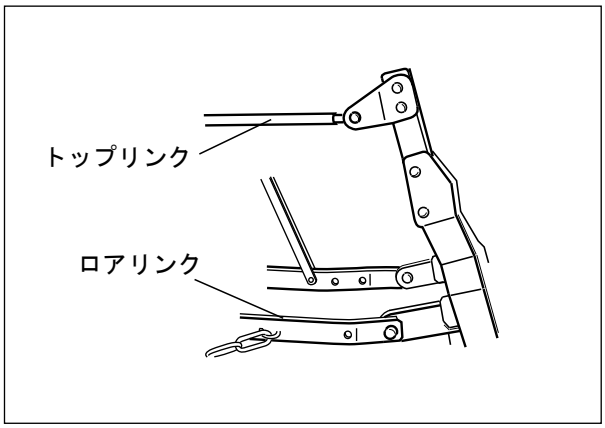
※組替え調整後にはボルトＡを確実に締付、リンチピンを必ず組付けてください。

③取付角度調整

出荷時は [イ] の状態で組付けられています。特殊オートヒッチに装着する場合には、Ｂのボルトを弛めて取外し、トップリンクを前傾させてＣの位置にボルトを組込んで締付け、[ロ] の状態にして装着してください。

＜トップリンクとロアリンク位置の微調整＞

オートヒッチ装着時にトップリンクから組付けるとロアリンクが組付かない場合があります。このような場合には、トップリンク部の締付ボルトＡ（製品出荷時にはガタ分上方向に寄せて締付けています）を弛めて、調整後に締め直して下さい。



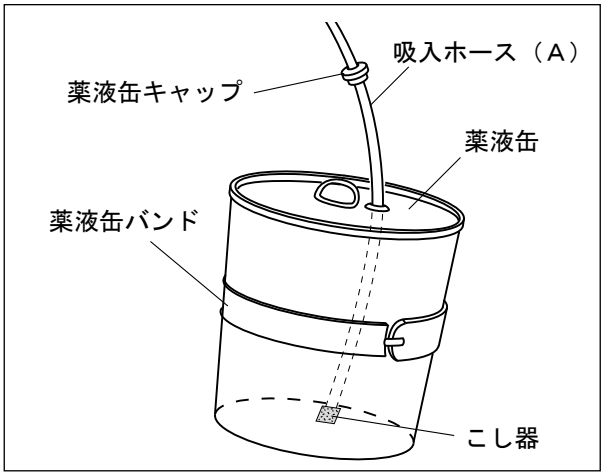
2） 直装の場合

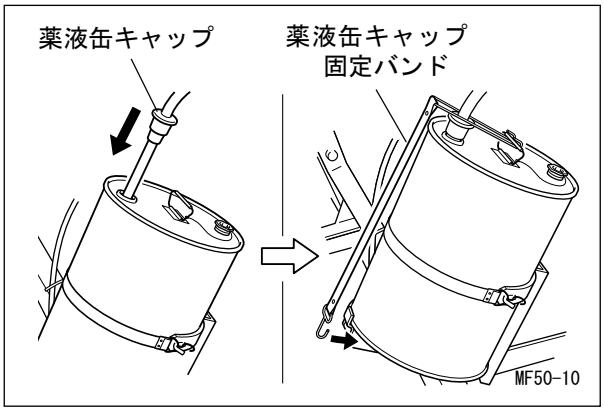
●トラクタ後部の３点リンクへ正しく取付けてください。

●トラクタのロアリンクを下部ヒッチピンに取付け、横ぶれしないようにしてください。

●トラクタのトップリンクを上部ヒッチピンに取付け、固定してください。

２．作業の準備





2-6. 薬液缶の搭載

薬液缶（市販の薬液缶）を缶取付け台へ載せ、ふたの位置を上側にして、薬液缶バンドで固定してください。

あらかじめ灯油、軽油などで試運転した後、吸入ホース（Ａ）を搭載した薬液缶のふたを取外し、差し込んでください。

●作業状態で吸入ホース（Ａ）のこし器が薬液缶の最下部に位置するように、薬液缶のふた位置を決めてください。

●搭載した薬液缶のふたを取り外し、吸入ホース（Ａ）のこし器を薬液缶の最下部まで押し込んでください。

● 薬液缶キャップをふたに差し込み、固定してください。

● 薬液缶キャップ固定バンドにてキャップが外れないようにしてください。

⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身につけないと事故が起こることがあります。正しく作業するために必ず適切な服装、保護具を身につけてください。

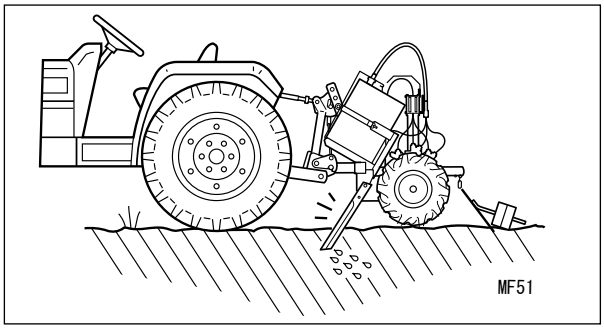
2-7. 薬液取扱い上の注意

薬液は有害ですので、開缶、吸入ホースの取付け作業はガスを吸い込まないように注意してください。配管接続部から液漏れがないか確認してください。

また、風のあるときは風上からの作業を心掛け、周囲の人や動物に注意を払ってください。

蒸発した薬液がこもりやすいハウス内作業は危険を伴います。体に感じる前に、換気および充分な休憩をとってください。

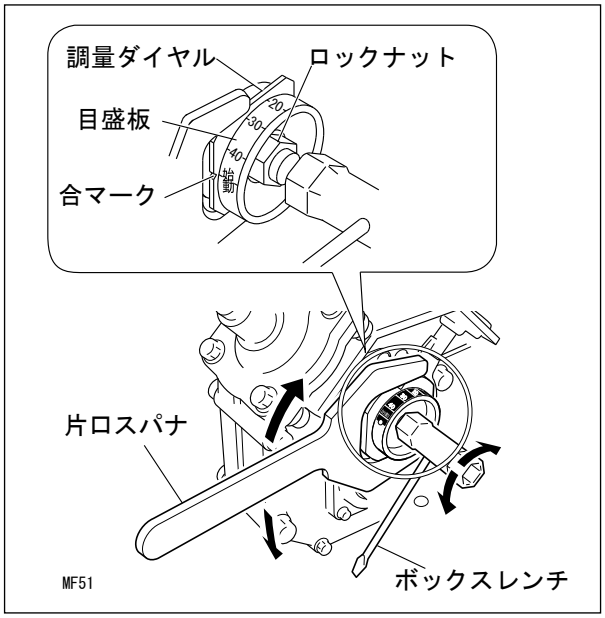
薬液の取扱いは、それぞれの薬剤の取扱説明書をよく読み、取扱い上の注意事項に従って安全作業を心掛けてください。



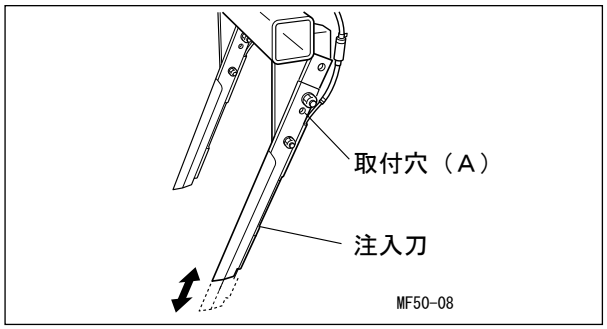
⚠ 警　告

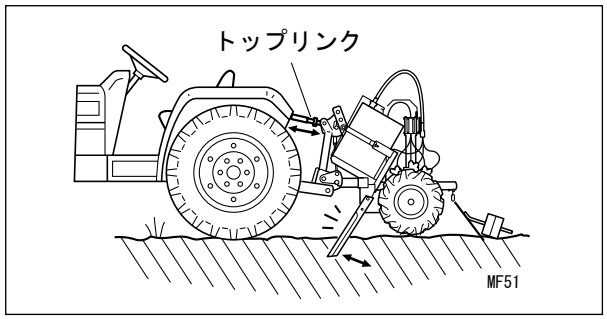
薬液が配管内に残っている場合は、調量中に薬液が注入刀ノズルから飛び出しますので、注入刀を５ｃｍ程度土中に差し込んでから車輪を回転させ、排出させてください。

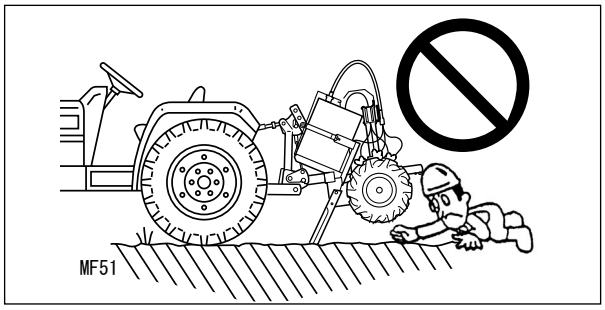
２．作業の準備



注 入 量 の 目 安 表			
目　盛	２０	３０	４０
注入量 (L/10a)	２０	３０	４０







2-8. 薬液注入量の調整

薬液注入量の調整目盛は参考です。使用する薬液の比重、粘度などと、圃場の土質、状態により変化しますので実際の作業において決めてください。

- 片口スパナで調量ダイヤルを固定し、ボックスレンチでロックナットをゆるめてください。
- 調量する際は、最初、調量ダイヤルの線を目盛板の始動位置にて車輪を回転させ､配管内のエアを完全に抜いてから行なってください。
- タイヤを固定しながら片口スパナで調量ダイヤルの合マークを目盛板の数値に合わせて薬液の注入量を調整してください。
- 目盛板の数値は１０ａ当りの注入量（単位：Ｌ）を表わしますが､圃場の条件や使用薬剤の種類、気温により多少異なりますので、条件に合わせて再調整してください。
- 調量後、作業中にロックナットがゆるまないように確実に締め付けてください。
- 本機は条間３０ｃｍ、注入ピッチ３０ｃｍになるように設計されています。
- 標準作業速度にて､目盛り３０に合わせたとき、１点当り約３ｍＬ注入します。

2-9. 注入深さの調整

注入刀を、フレーム部取付穴位置により調整ができます。

ＭＦ４１・・・・・・・・・3段階
ＭＦ５１,６１　・・・・・・2段階

- 注入刀をフレーム部取付穴位置Ａ部に取付けると、注入深さを深くすることができます。

トラクタのトップリンクの長さ調整により微調整ができます。

- トラクタのトップリンクの長さを伸ばすと注入深さは浅くなり、縮めると深くなります。

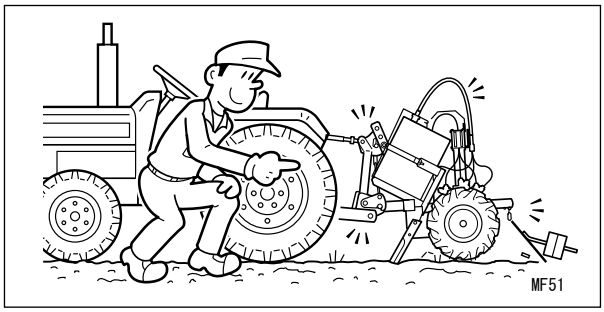
⚠ 警　告

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

3．散布作業

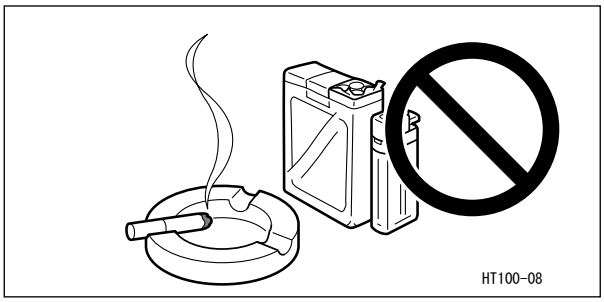
⚠ 注　意

●作業前に必ず取扱説明書を読み、以下の点について作業の計画をたててください。
　・薬剤の種類、量を決める　・走行路を点検する　・走行速度を決める　・作業手順を確認する。
●農協、防除共済組合などの職員から防除作業の注意事項について説明を受けてください。
●作業の前に、装備するトラクタの取扱説明書をよくお読みください。



3-1. 作業前の点検

●各部品がきちんと取付けられているか確認してください。

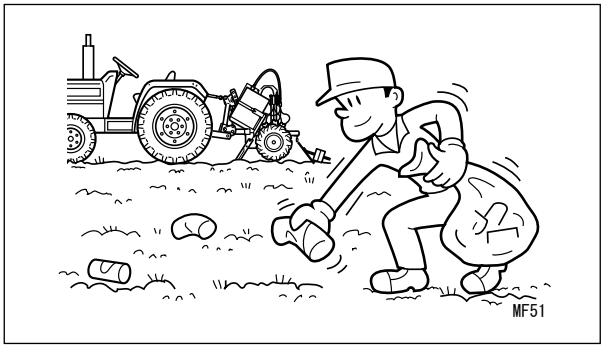


3-2. エンジン始動、燃料の取扱

●エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

⚠ 警　告

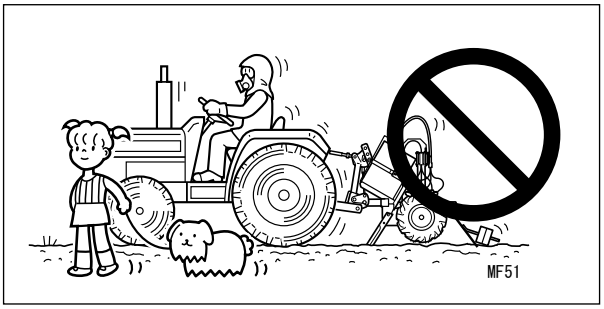
燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。



3-3. 整地

●薬剤散布処理する圃場は、できるだけ事前に耕起、砕土、整地して残根やわら屑などを良く取除いてから作業してください。
　砂地や麦株のある圃場などは耕起しない方がかえって作業しやすい場合もあります。それぞれの場面に適した方法で行なってください。

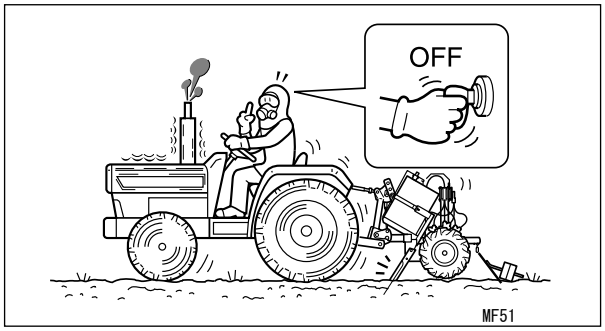
●作業場所の点検は必ず行い、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。



3-4. 作業中の注意

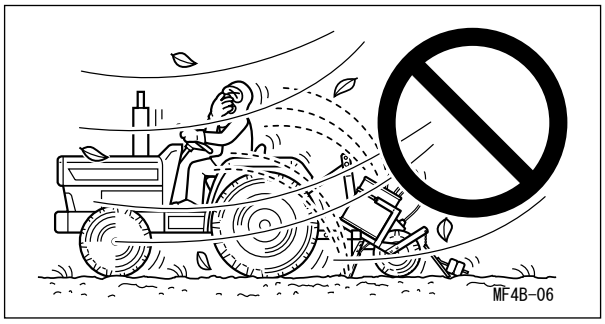
●人や動物などが近くにいないことを確認してください。

3．散布作業



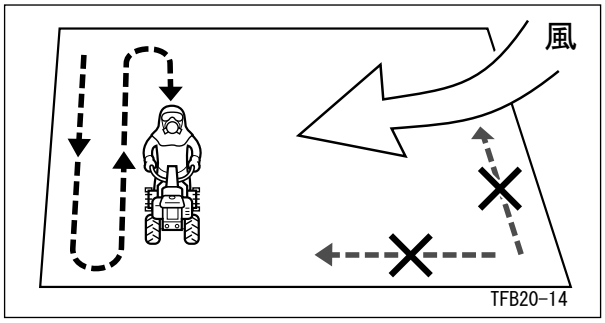
⚠ 警　告

危険を感じた場合は、すぐに作業を中止してください。

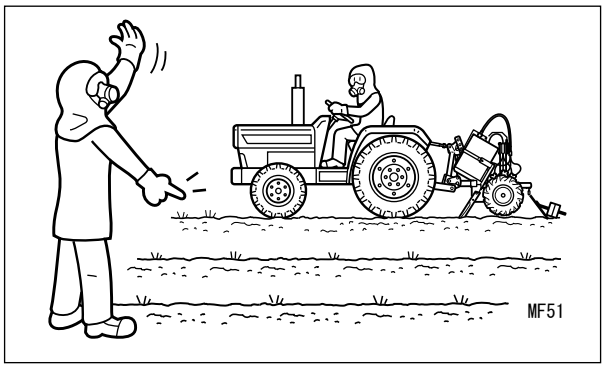


⚠ 警　告

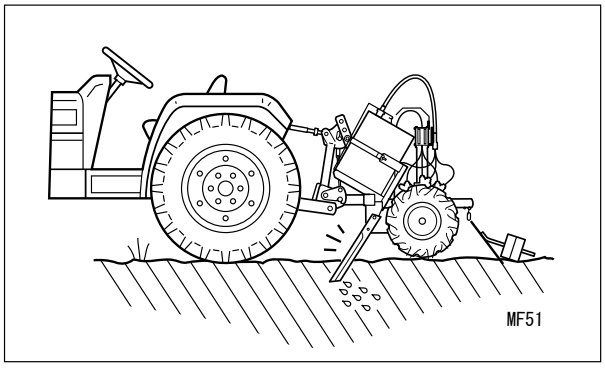
風が強いときには、絶対に作業を行わないでください。風向きが急に変り､予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。



●農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方から作業をはじめてください。



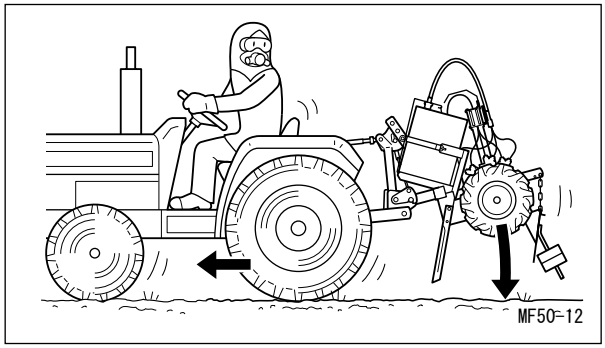
●防除作業を二人以上で行う場合、合図をして安全を確認してください。



3-5. 操作方法

- 最初、注入刀を５ｃｍ程度土中に差込んで、薬液を薬液缶から吸い込み、配管内のエアが抜けるまでポンプ駆動車輪を回転させます。検流計の浮子の動きを見て確認します。
- 作業中は検流計の浮子の動きで確認しながら行ってください。浮子の動きが停止したり、動きが不規則の場合は薬液が注入していませんので、原因を探し、修理してから使用してください。

３．散布作業

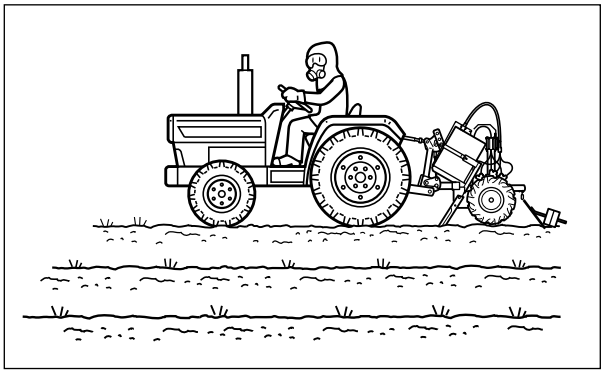


●トラクタを発進させながらトラクタのリンクをポンプ駆動車輪が回転し、注入刀が必要な深さになるまで下げます。

●ポンプ駆動車輪の回転によりポンプが作動し、薬液が注入刀より土中に注入されます。

●標準作業速度は６ｋｍ／ｈ以下で行ってください。６ｋｍ／ｈ以上の作業速度では、必要な注入量を確保できず、鎮圧も充分になりませんので注意してください。

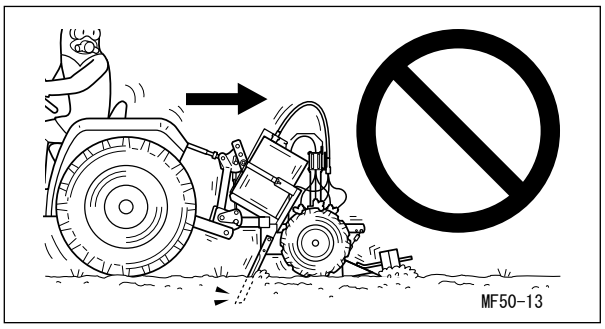
●旋回するときはトラクタのリンクを上げ、本機注入刀が完全に土中から抜けたことを確認してから行ってください。



重　要

●高粘度の薬液の使用や、作業速度が速すぎたりすると、吐出量が大きく低下することがあります。

●圃場表面の凸凹が激しかったり、また進行方向に沿って大きな段差があると、ポンプ駆動車輪が浮き上がり、ポンプ駆動車輪が回り難いことがありますので、圃場表面は均平にしてください。

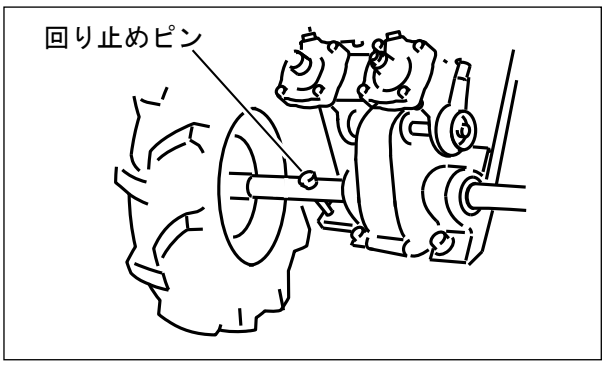


●旋回したときに先作業の鎮圧跡に鎮圧板の端の部分が少し重なるように合わせて進行させると３０ｃｍ間隔で注入することになり、均一な注入ができます。できるだけ直進してください。

●注入刀ノズルが詰まることがありますので、トラクタを停車したまま注入刀を土中へ差込んだり、注入刀を土中へ差し込んだまま後退しないでください。

●作業終了後は薬液が通る配管系等を必ず洗浄してください。

（洗浄方法に関しては「4-1. 洗浄」の記載内容を参照願います。）



●作業終了後に本製品をトラクタに搭載したまま移動する場合、回り止めピンで車輪のシャフトを固定してください。

3．散布作業

⚠ 危　険

薬液は人体に有害ですので、薬液の取扱い上の注意事項を熟読の上、充分注意してください。

⚠ 警　告

農薬に関する法令および注意事項は、農薬の種類、使用する場所などにより異なります。そのため、この取扱説明書に農薬に関するすべての法令、注意事項を記載することはできません。
お客さまが使用する農薬の使用方法、ラベル表示、関連する法令、注意事項をよく理解してから、散布作業を行ってください。



⚠ 警　告

作業中や作業終了後に、体に異常を感じた時は、すぐに作業を中止し医者に相談してください。
※ 使用していた農薬の種類を告げてください。

3-6. 農薬使用前の注意

- 使用する薬剤の「使用安全基準」を守ってください。特にガス化した薬剤がこもりやすいハウス内の作業は、出入口を開けて充分に換気をしてください。換気が悪いと、ガス化した薬剤を吸い込んで、涙がでたり、呼吸困難になり大変危険です。
  特にクロールピクリンなど揮発性の高いものには充分注意してください。
- 農薬のラベルには必要な注意事項が書かれています。いつも使用している農薬でもラベルの内容に変更がある場合があります。使用する前に必ず読み、その指示にしたがってください。
- 薬剤を取扱うときは、防毒マスク、ゴム手袋、保護めがねなどの保護具を着用してください。
- 作業を行う場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。

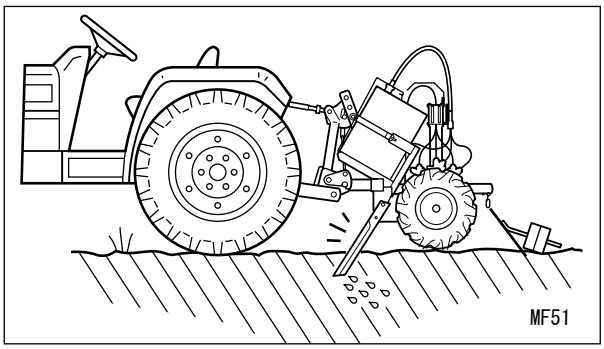
3-7. 農薬使用中の注意

- 作業は日中を避け、涼しい朝、または夕方に行うようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。
- 農薬の使用はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
- 作業をしながらタバコを吸ったり、食べ物、飲物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬が体の中にはいることがあります。

3-8. 農薬使用後の注意

- 農薬が残ってしまった場合は、川、下水道などに流さないでください。
- 農薬の空き容器はしっかりとふたをし、適切な方法で処理・保管してください。
- 農薬、器具の後片付けが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。
- 農薬使用の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸入した場合、体内酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むと、さらに酵素の働きが低下し疲労の回復が遅くなります。

4．洗浄・点検整備・保管



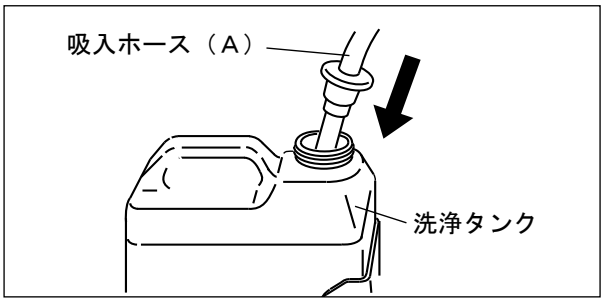
4-1. 洗浄

この機械の材料は特に使用薬剤（ＤＤ、クロールピクリンなど）に対して耐蝕性にすぐれたものを使っていますが、作業終了後は薬液が通るところを時間を置かずに、必ず洗浄してください。灯油または軽油を使用して、薬液配管系統に通し洗浄してください。

⚠ 警　告

ポンプを洗浄する前に、ポンプ内の薬液を土中に排出してください。

● ホースの交換組込みや洗浄の際に界面活性剤が入っている洗剤（中性洗剤等）を使用しないでください。
☆ ホースの劣化を早めます。

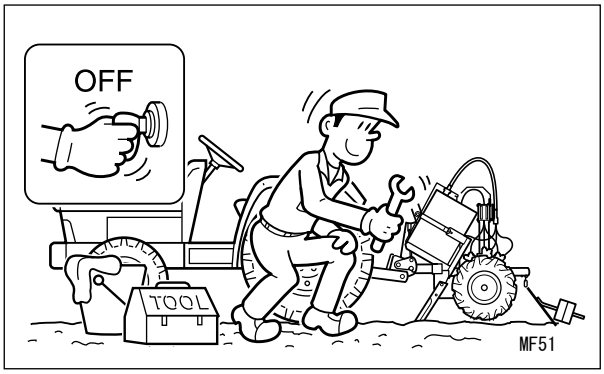


●作業が終了したら、薬液缶から吸入ホース（Ａ）を抜き、洗浄液の入っている洗浄タンクに差込みます。注入刀を５ｃｍ程度土中に差込み、洗浄液を吸込み、薬液が完全に抜けるまでポンプ駆動車輪を回転させます。

4-2. 点検整備

点検整備は平坦な場所で、トラクタのエンジンを停止させ、作業機の落下防止を行なった上でで行ってください。

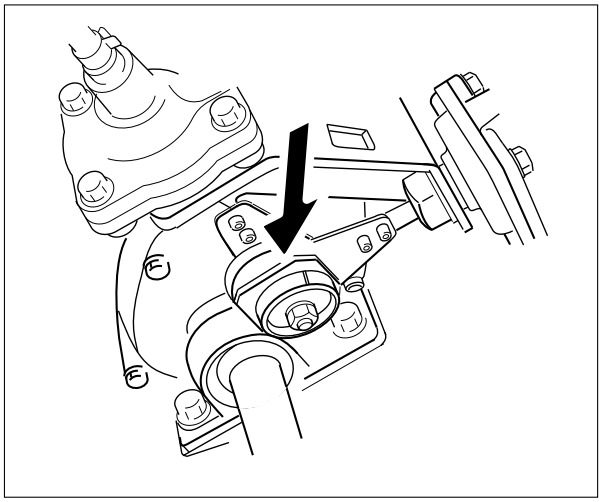
● ホースの交換組込みや洗浄の際に界面活性剤が入っている洗剤（中性洗剤等）を使用しないでください。
☆ ホースの劣化を早めます。



⚠ 警　告

・ 作業機をトラクタ、テーラーに取付けた状態で点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。
・交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安全な場所で、トラクタの前輪には歯止めをして点検整備してください。
・作業機の落下防止のため、トラクタやテーラーの油圧ストップバルブを右に回して完全に締めてください。なお、安全のために作業機の下に木の台などをしてください。

4. 洗浄・点検整備・保管



4-3. 日常点検

- 使用前後に、機械の回転部に注油してください。（ギヤオイル、グリースなど）
- 薬液系統、特に配管接続部から液漏れがないか確認してください。
- 機械の各部のネジ類のゆるみや欠品がないか点検してください。
- 注入刀は泥、水分を完全に拭き取り、防錆剤、油などを塗って、雨水のあたらない湿気のない場所に保管してください。

4-4. 保管

長期保管時には配管系統の液体を完全に抜き、直射日光が当たる場所や、高温となる場所等をさけて保管してください。
冬期に検流計に薬液等が残っていると、ガラス管が凍結し、破損する恐れがあります。

５．故障対策

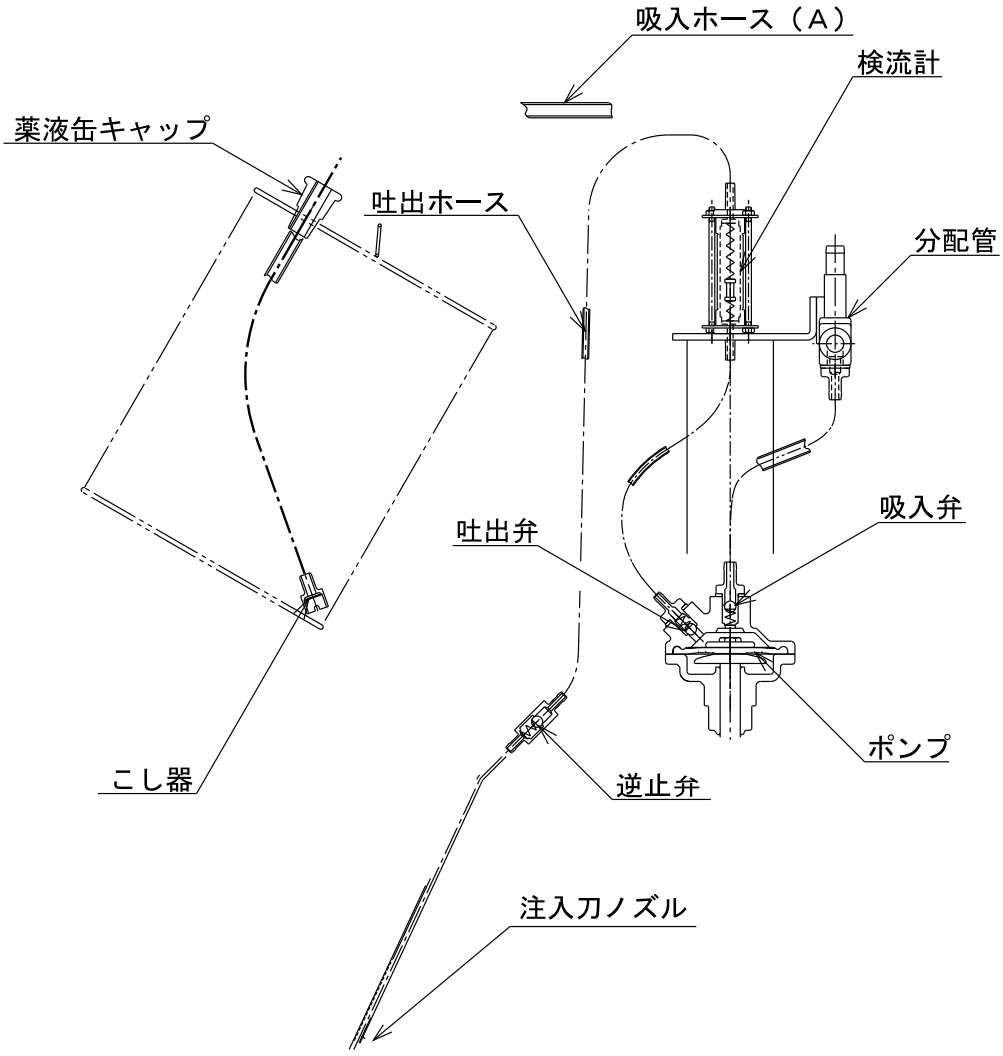
●薬液が正しく注入されないときは、下記のことを点検してください。

⚠ 警　告

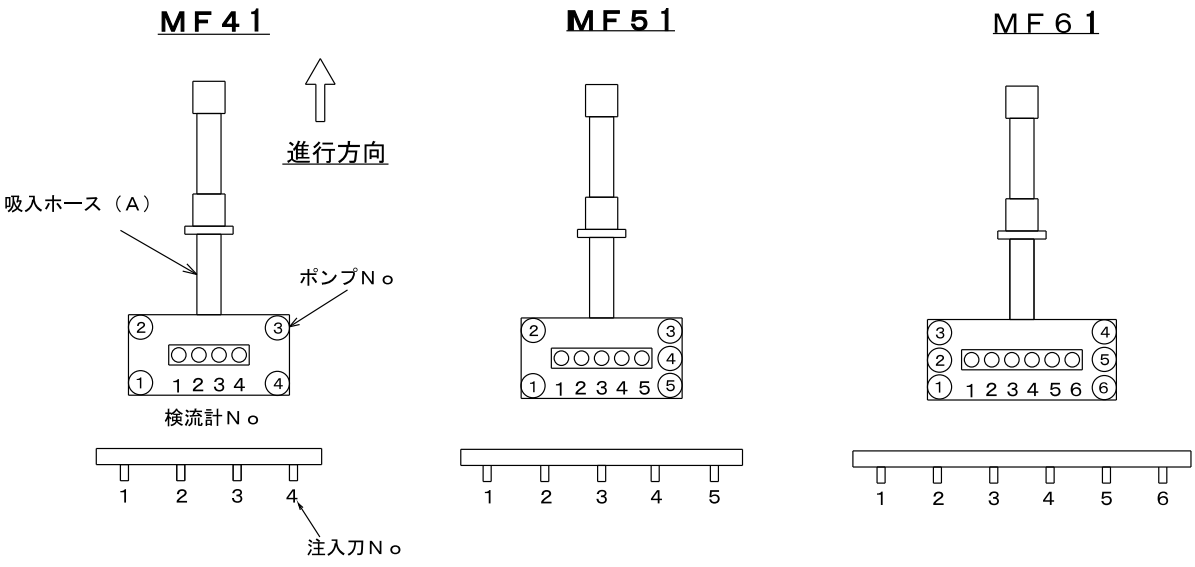
点検および分解する時は、ポンプ内に薬液が残っている場合がありますので、必ず防毒マスク、防護衣、保護めがね、ゴム手袋、ゴム長靴、帽子などを着用してください。
ガス化した薬剤を吸い込むと、涙が出たり、呼吸困難になり大変危険です。

確認箇所	不具合の原因	対策
こし器	1. 詰まっている	清掃する
	2. 薬液面より浮き出ている	浮き上がらないように正しく取付ける
	3. 吸入ホース（Ａ）が折れている	修正、または交換する
配管系統	1. 吸入ホース（Ａ）に亀裂、穴あき	新品と交換する
	2. 配管接続部の締付け不良、ゆるみ	増し締め、バンドを締める
	3. 配管各部の詰まり（特に注入刀のノズル）	清掃、調整する
	4. ポンプが正常に作動していない	調整する、または販売店へ
ダイヤフラムポンプ	1. ダイヤフラムの破損、変形	交換する、または販売店へ
	2. ダイヤフラム取付ボルトのゆるみ	増し締めする
	3. ボールバルブ、バルブスプリングが破損、取付不良	交換する、または販売店へ
ポンプバルブ室	1. ボールバルブ部分にゴミの詰まり	清掃、調整する
調量ダイヤル	1. 必要な注入量目盛にセットしていない	正しい目盛に合わせる
ポンプ駆動車輪	1. 地表につかない、スリップしている	トラクタのリンクを下げ、調整する
検流計	1. 破損している	新品と交換する
	2. 金具が正しく取付けられていない	修正、増し締めする
逆止弁	1. ボールバルブ部分にゴミの詰まり	清掃、調整する
	2. ボールバルブ、バルブスプリングが破損、取付不良	交換する、または販売店へ

６．ポンプ配管図



［ 上方から見る ］



7．仕　様

項　目		単　位	ＭＦ４１	ＭＦ５１	ＭＦ６１
長さ×幅×高さ（*1）		mm	788 × 1,182 × 1,043	788 × 1,382 × 1,053	788 × 1,682 × 1,053
質　　量（*2）		kg	83.6	87.8	105.7
薬液ポンプ	型　式	--	ダイヤフラムポンプ		
	個　数	--	4	5	6
	駆動方式	--	接地輪駆動		
	注入量	L/10a	20 ～ 40		
駆動車輪数		個	2		4
注入刃	本　数	本	4	5	6
	標準深さ	cm	23 ～ 35	15.5 ～ 20	
	間　隔	cm	30		
作業　幅		cm	120 ～ 180		
適応トラクタの定格出力（４輪駆動）		kW(PS)	11（15）以上	15（20）以上	18（25）以上
トラクタ装着		--	日農工標準規格オートヒッチ		
対応オートヒッチ		--	日農工標準オートヒッチ　０－Ⅰ形兼用、 Ⅰ－Ⅱ形兼用 日農工特殊オートヒッチ　Ａ－Ⅰ形、 Ａ－Ⅱ形、 Ｂ形		
標準作業速度		km/h	2 ～ 6		

*1［長さ］および［幅］　；鎮圧板除く・スタンド使用・水平状態、
　［高さ］　；車輪下からパイプカバー上まで
*2［質量］　；鎮圧板、鎮圧ウエイト除く

この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ モ

メ モ

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181 (代)

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-023 31 0
X750408-400 0　　2402le 0027 ES

© 2013 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。